



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2023年7月2日

No. 110

そのあなたが御心に留めてくださるとは
人間とは何ものなのでしょう。

詩編 8編5節 a ・ 新共同訳



宣教 40 年の旅 -100%感謝して-

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

テサロニケの信徒への手紙一 5 章 16-18 節 a

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



今日与えられている、福音の日課に目を向けますと、「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである」と始まっています。「あなたがた」、すなわち派遣された弟子たち、私たち教会の群れと言うこともできるでしょう。この「あなたがた」を受け入れる人は、主イエスを、そして主なる神を受け入れると言われています。このことは、派遣された弟子たち、そして私たちが主と共におられることを強調しているということになるでしょう。主は人を派遣して放っておく方ではなく、派遣しつつも派遣された者と共にいる方なのです。派遣され、相手と対面しているのは、確かに私たちなのですが、その私と共に主がいてくださる、これは紛れもない事実なのです。そしてこのことは同時に、私と共にいる神は対面する誰かとも共にいる神であるということです。つまり、互いに受け入れ合うという出来事が、主なる神、主イエスをはさんで起こっているということです。

今日の主題はこの「受け入れる」ということなのですが、「相手を受け入れる」とは、相手をそのまま受け止めるところから始められるものにちががありません。「そのまま受け止める」といっても、これがなかなかできないのが私たちなのかもしれません。

かつて「るうてる福音版」という伝道用の新聞への連載を、堀肇先生にお願いしたことがありました。「相手を受け入れる」ことは、相手をそのまま受け止めるところから始められると、申し上げましたが、連載の中に、次のような堀先生の文章があったのを思い出しました。「人と一緒にいるにはどのようにすれ

ばよいのでしょうか。それはまず相手の心の歩調や感じ方を理解することです。その感じ方を受け入れてあげることです。このようにしてもらおうと、人は先に行ってしまう友が傍らに『共にいる』という実感が持てるのです。」

堀先生は「相手の心の歩調」と言い表しています。実際の歩調でしたら、相手の様子を見ながら、合わせようとするのは努力次第でできるのではないかと思います。一方心の歩調となりますと、目に見えないところですから、合わせる事がなかなか困難であると思われるのです。しかし堀先生が言っているのは、合わせるということは相手を受け入れるということなのです。決して自分の価値観や感じたことを押し付けるのではなく、相手を感じていることをそのまま受け入れること、言い換えるなら、相手を主語として受け入れる、これが心の歩調を合わせる第一歩なのです。

自分を主語として生きている私たちですから、誰かの心に歩調を合わせることは、困難なことかもしれません。少なくとも私たちの内に、そうする原動力を求められるなら、困難極まりないことでしょう。しかし私たちは思い起こさなければならないのです。何よりもまず、主なる神がイエス・キリストを通して、私たちの心の歩調を合わせて、そのまま受け入れてくださったということ。そしてその主が今日も、私たちが共に、対面する誰かと共におられるということ。この事実のゆえに、私たちはすべての人々を受け入れ合い、一人ひとりの心の歩調を合わせるように、生かされて用いられるのです。

(聖霊降臨後第7主日)

宣教 40 年を迎えて 市〇〇江

5月7日記念礼拝として、小副川先生をお迎えして聖餐をいただき、こころあたたまるお説教を久々に賜り心が膨らむ想いが致しました。

十数年前、先生を始めて藤が丘教会にお迎えした時、近隣に住む、今は亡き、〇田姉、田〇（〇子）姉、〇村姉等と共にお茶を用意してお待ちして居りました。やがて先生は、コーヒーカップを片手に、笑顔で入って来られました。懐かしく思い出されます。小副川先生のご在任中は教会も色々な問題がありました。先生は淡々として愛をもって解決して下さい、又常に財政難の内にも、オルガンを新調して下さいました。神様のお働きを感じました。先生のご在任中最後の秋に夫孝之を神様のみ国にお送り下さいました。心から感謝いたして居ります。先生にいただいたカードの中に

「小さなことを喜ぶ人は
大きな喜びも見出すことができる」

このみ言葉を十分に理解することが出来る、今日このごろとなりました。

青春時代 〇田〇

私が通っていた高等学校は、昭和の初期に高等女学校として設立され、戦後共学の普通高校に改編されました。世は学歴主義の風潮が高まり、家でも学校に居ても「一に勉強、二に勉強、三、四がなくて五に勉強」となり、私の一番苦手な世の中となりました。家では机の前に座って勉強のふりをしていましたが、ラジオから流れ来る深夜放送のとりこになり、机の前が楽しくなりました。二年生になる時クラスメンバーが再編されましたが、皆と話していると私と話が合い、冗談好きなメンバーが多く、より学校で友だちとの

生活が楽しくなりました。また、世は落語、漫才ブームとなり、クラスは笑いが絶えないムードでした。

ただ授業の一つだけ、大学卒業したての若い女性の先生でしたが、この授業だけは皆嫌がりました。冗談ひとつない教科書通りの授業に早弁する者、居眠りする者、窓外にくぎづけになる者、早く終わらないかと皆、それだけでした。そう言う私も……。クラス皆は気が合い冗談、いたずら好きの人が多く、この授業をなんとかしようかと相談し、満場一致で決まったことが、以下の通りです。

授業の始めや終わりはチャイムが教室に備え付きのスピーカーから流れるのですが、まずチャイムの音を録音し、授業終了前に流し、時間を短縮するというものでした。クラス満場一致で「賛成!!」と相成り、さっそく実行。

その時先生は「あれ？ 今日早いですね……。終わります。」先生が退室された時、皆そろって拍手のあらし。

このような笑いの中で、楽しい思い出多い私の青春時代でした。

ある日、当時の田主牧師、一人の役員の方に、大事な話があると呼び出されました。「杉田君、君、将来牧師にならないか？」真剣なお顔で話されました。「もし、その気があるならば、受洗しなさい。」と……。あまりにも突然のお話で返事に困って黙っていると、「よし、決まり！ 今度のイースター礼拝で……。」

あまりにも突然で私は声が出せなかっただけなのに……

多くの方は、受洗の決心をする時は、その喜びに感動するのに、私にはそれがありませんでした。しかし、これまで通った教会の牧師や先輩方、同輩の方、何よりも神様とつながって御導き頂いた事に心より感謝しつつ、人生の終盤も過ごして行こうと思う昨今です。

「フラの会」

○原○雪

フラの会当日は前日までの雨が上がり、爽やかな気持ちで皆さまと踊ることができました。まず色とりどりのフラスカートを選んでいただくところからスタートして(皆さまとてもお似合いました!)ハワイアンミュージックにのってフラステップ、そして曲の意味を理解しながらの振り入れ。

フラは全くの初めてという方が多い中、最後は2つのグループに分かれてミニ発表会まで出来ました!すごいです!!

手と足とお顔の表情と、全てを意識しながら踊ることは実際にやってみると難しいことなのですが、素敵に踊ってくださり、そして心からフラを楽しもうとしてくださっているのが伝わってきて、とても感動いたしました。



た。幸せな時間を共有させていただいたことに感謝です。

藤が丘教会のフラダンサーの皆さまに大きな拍手をおくります。

「フラの会」に参加して

定○○子/ ○谷○子/ ○井○子

○原さんには、お忙しいスケジュールの中、お時間を割いて教えていただき誠に感謝申し上げます。

○原さんに教えて頂けるとは、夢にも思っておりませんでしたので、私にとって幸せなひとときとなりました。

○原さんの楽しくてわかりやすいご指導の下、参加者全員で同じ動作をすることで、だんだんと全員の心が一つになっていく感じがして、嬉しい驚きでした。

私もフラダンスを習っていますが、愛をテーマにした曲が多く、私は神様への感謝と賛美だと受け取って踊っています。

最後に、○原さんが模範演技をして下さいましたが、全身を使って心を込めて表現される姿を拝見して、フラダンスは魂の踊りだなと感じ入りました。(定○○子)

フラを見た事はありませんが、踊りを教わったのは初めての経験でした。

見学のつもりがいつの間にかハワイのスカートををはき、髪には白いお花をつけて貰っていました。

いざレッスン開始です。まず指、腕、両手の動きに始まって、足、腰、もう本当にパニックでまるでデクの棒の如くの私、ご想像下さい。

最後に○原さんが踊って見せて下さいましたが、柔らかな指、身体、笑顔が、何とも優雅で、皆魅了されてしまいました。

○原さんのフラについてのお話しいかに私が誤解していたのか良く分かりました。でも、私はやはり観客席の方が似合っている様です。○原さん本当に有難うございました。(○谷○子)

やりたいと思っていた「フラ」。

お借りした衣装を着た途端、気分は高揚。「フラ」の説明を聞き、いざ始めると、余裕はなくなり、笑顔もなくなり必死の形相。

ぎこちない踊りも、何度も繰り返すうち、少しだけゆとりが出来、楽しくなりました。

最後に先生が素敵な踊りを披露してくださいました。それを見て、もしまた「フラの会」をやって下さるなら、参加して、コチコチの体をやわらかくして、腰、膝、手もやわらかく働かし、笑顔で楽しんで踊りたいと思います。(○井○子)

継承する祈り - 「祈りの手紙」を通して感じたこと-

佐藤和宏

聖書日課編集局が出版する「聖書日課」は、「聖文舎」というルーテル教会の書店が出版していました。会社を閉じることになった際、有志による「聖書日課を読む会」が発行を継承することになりました。毎日の日課と短いメッセージが、全国の教職が手分けをして担当しています。その文末に、その日の祈りとして、全国の4つのルーテル教会から一つの教会のために祈っています。

日本福音ルーテル教会宣教百年(1993年)を機会に、鹿児島教会の梅○さんという方が聖書日課で祈る教会宛に祈りの葉書を送り始められました。その後何年も欠かすことなく、祈りの葉書は送り続けられました。梅○さんの祈りのハガキは多くの人々の心を動かし、梅○さんが亡くなられた今も、それは継承されています。

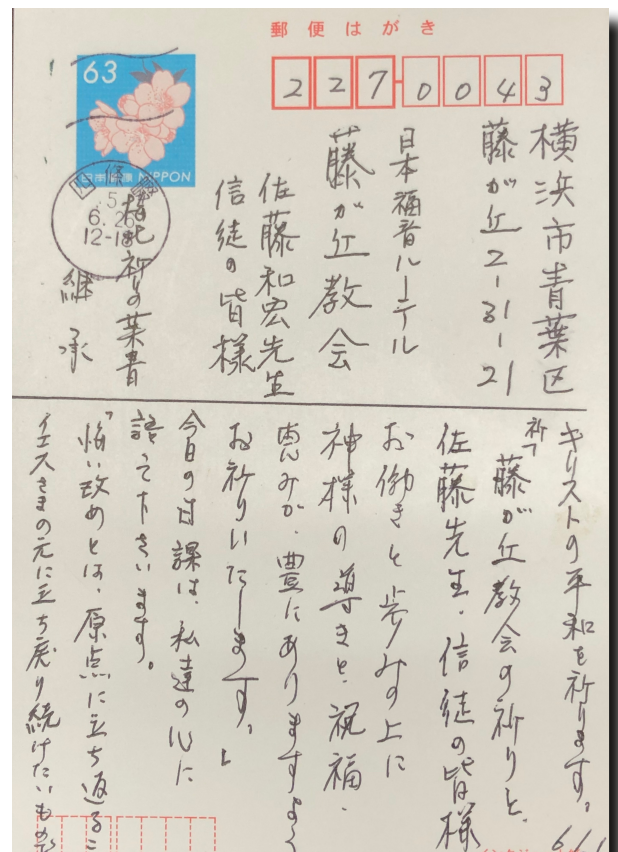
先月26日、私たち藤が丘教会のための祈りとなっており、私たちが気づかないところで、全国の多くの方々が祈ってくださっている事実は、私たちに励まします。目の前にある現実にとらわれている、私たちは祈られていることに、そしてそれらの祈りを聞いてくださる方に勇気づけられましょう。

先日届いた祈りの葉書は、私たち藤が丘教会のために祈る言葉を届けています。そして差出人の署名は「梅○祈る葉書 継承」とありました。継承することを思い当たった方々

の働きも大きなものだと思いますが、あくまでも梅○さんの祈りを継承する者だということだけを伝えているのです。

消印には「四條畷(しじょうなわて)」とありました。ルーテル教会の老人施設「るうてるホーム」があるところ。高齢となった信徒たちが、全国の教会のために祈ることを継承しているのだと思われました。

いくつになっても、誰かのために祈る恵みは、平等にあるのです。



●女性会だより

6月18日 18名出席
司会、お祈り ○野姉

1 聖書の学び

マタイによる福音書 22章37節～39節
「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。（略）隣人を自分のように愛しなさい。」

2 女性会例会

①物品販売

6月18日 礼拝終了後に行なわれた。
収益はウクライナ支援の連帯献金にお送りする。

②女性会日程について

他の委員会との兼ねあいもあり、協議。

次回例会は7月16日

●牧師室より



7月に入りました。7月は8日（土）には、宣教フォーラム「語感に響く豊かな礼拝」（東京教会）、9日（日）には、講演会「難民の現状から」（原島博先生）、10日（月）には、虹のひろば「夏にぴったりフルーツティー」がそれぞれ開催されます。一つ一つのプログラムが豊かに祝福されますように。また、昨年の4月より、当教会にて教会実習をされていた、大和友子神学生の実習が今月で終了となります。8月からは「宣教研修」が始まります。約7ヶ月の期間を、日曜日だけでなく、教会で集中的に過ごすこととなります。大和神学生の最後の説教は、23日

今月、受洗記念日を 迎えた皆さん

6日 ○田由○子姉
23日 ○野○子姉
25日 ○井○子姉、今○○子姉
30日 ○坂○美姉

おめでとうございます。



「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」
テサロニケの信徒への手紙一5章16-18節a
●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから。



に予定されています。ぜひお越しください。
(佐藤)

■7月の予定

●8日（土）宣教フォーラム

「五感に響く豊かな礼拝」

講師：加藤拓未氏、上村敏文氏

担当：田○○夫さん、○野○苑さん

●9日（日）講演会

「難民の現状から」

-私たちに求められる関わり方を考える-

講師：原島博氏（ルーテル学院大学）

担当：○藤真○さん

※それぞれの詳細については、担当者にお尋ねください。



👉スマートフォンで、こちらのQRコードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。